

第1回 食に関する指導研修会

令和元年12月8日(日)に、東浦町立東浦中学校 主幹教諭 竹内稔博先生をお招きし、「児童生徒の関わり方・見取り方と教師修行～教壇に立ったらプロ教師 最高の笑顔で 最高の教育を～」という演題で研修会を行いました。167名の会員が参加し、指導や支援のポイントを学ぶ、有意義な研修会となりました。

1 児童生徒との関わり方

「子どもに対して、素直で謙虚でいますか。子どもから学ぼうという気持ちはありますか」という問いかけから竹内先生の講義が始まりました。参加者全員が、日頃の自分の振る舞いを思い返し、児童生徒と本気で関わっていくことが大切であると再確認しました。

児童生徒と関わる時には、対話の三要素「笑顔・うなずき・傾聴」が重要で、この3つがうまくいくと子どもとの距離が縮まり対話が生まれていくということを、具体的に例をあげて教えていただきました。また、教師は子どもの活動を必ず評価し、常に肯定的に励ますと、子どもの自己肯定感が増し、教師との信頼関係もよくなることを学びました。

2 児童生徒の見取り方

児童生徒の関わり方・見取り方の実践例として、栄養教諭の授業の一部を見せていただきました。そして、具体的にどのように子どもたちに声をかけたり、接したりしたらよいのかを、私たちが現場ですぐに実践しやすいように、分りやすくご指導いただきました。

3 プロとして意識したいこと

授業をする時に最も大切なのは、笑顔で上機嫌でいること、テンションを上げていくことだと教えていただきました。また、教師がしゃべり過ぎず、教え過ぎないこと、小さな対話を授業に組み込むことが主体的・対話的で深い学びの実現につながるということも学びました。



【竹内 稔博先生】



【研修会の様子】

《参加者の声》

- ・以前から児童生徒との関わり方については課題を感じていました。講義の中で、いくつかの手だてを教えていただき、明日から子どもたちと全力で関わっていこうと決めました。経験の少なさを言い訳にせず、経験がないからこそ様々なことに恐れず挑戦していきたいです。
- ・講義の中で一番心に残っている言葉は、「笑い・上機嫌・テンション上げて」と「教師がしゃべりすぎない」です。自分の緊張をほぐすためにも子どもたちとの距離を縮めるためにも、さらに「笑顔」を大切にしていきたいと感じました。

竹内先生のご講演を拝聴して「明日から実践しようと前向きな気持ちになった」という感想が、会員から他にも数多く寄せられました。